

COVID-19 に対応した健康・スポーツ科目における 遠隔授業の組織的実践

川邊保孝*1・植村隆志*2・八百則和*2・與名本稔*2・小山孟志*3・
小河原慶太*4

Organizational Practice of Remote Lecture for Health and Sports Classes
during COVID-19 Pandemic

by

Yasutaka Kawabe, Takashi Uemura, Norikazu Yao, Minoru Yonamoto, Takeshi Koyama and
Keita Ogawara

Abstract

The purpose of this article is to provide a report on Tokai University's practical online classes for health and sports subjects during the Covid-19 pandemic. These health-and-sports classes were conducted through a task-based learning style (TBL) in on-demand remote classes. This report indicated that these remote classes were beneficial as a learning system for both the knowledge and theory of sports science. However, our findings suggest that on-demand remote classes do not meet all the needs of our students and that regular face-to-face classes for first year students is necessary for their education.

I. はじめに

2020年に世界的に流行した新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)は日本においても甚大な影響を及ぼした。2020年4月には緊急事態宣言が発令され、外出の自粛などの行動制限や社会・経済・教育活動における様々な制限により市民生活も大きな影響を受けることとなった。当然ながら Covid-19 は大学教育にも大きな影響を及

ぼし、文部科学省(2020)によると2020年5月時点では全国の大学のうち90.0%が遠隔授業によって授業を実施しており、従来の授業形態を大きく変更せざるを得ない状況となった。東海大学においても2020年度春学期の授業開始が5月11日に延期され、全ての授業を遠隔で実施することが決定された。

東海大学では健康スポーツ科目という名称で

*1 東海大学体育学部生涯スポーツ学科 *2 東海大学体育学部競技スポーツ学科

*3 東海大学スポーツ医科学研究所 *4 東海大学体育学部体育学科

体育実技科目が必修としてカリキュラムに位置付けられており、全国のキャンパスにおいてそれぞれの特徴を生かしつつ授業が展開されている。健康スポーツ科目は、“健康と体”とテーマに学ぶ「健康・フィットネス理論実習」と“生涯スポーツ”をテーマに学ぶ「生涯スポーツ理論実習」の2科目計2単位から構成されている。これらは、健康と体育・スポーツ活動の意義を学び、将来の人生をより豊かにできるようなライフスタイルを身に付けることを目標とし、「若き日に汝の体躯を養え」という建学の精神に則るとともに、「広く自らの歴史観、世界観、人生観を培い、社会に対する強い使命感と豊かな人間性を備えた人材を育成する」という東海大学の教育目標に寄与する科目として設定されている。また、健康・体力面だけでなく、初年次教育としての位置づけも併せ持ち、仲間とともに身体活動を体験することで、「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」もねらいとしている。そのため、東海大学の全学生は、学科ごとに指定された健康スポーツ科目を第1 Semesterと第2 Semesterに履修することとなり、その履修者は湘南キャンパスだけでも約 5,000 名にも及ぶ。また、これだけの大人数に対して必修の体育実技科目を展開するためには授業コマ数や担当教員の確保が必要となり、湘南キャンパスにおいては年間 150 コマ以上の授業が開講され、延べ 350 名の教員が本授業を担当している。これほど大規模に必修の体育実技科目を展開している大学は極めて稀である。2020 年春学期はこの健康スポーツ科目も Covid-19 対策として遠隔授業で開講されることとなり、急きょ授業内容ならびに運営体制を変更することとなった。

本稿は、2020 年度春学期に東海大学において実施された健康スポーツ科目の遠隔授業の組織的実践を記録するとともに、その実践を通して導かれた体育実技科目における遠隔授業の有用性と課題を明確化することを目的とする。この知見は、大学教育における新しい生活様式下での体育実技科目の授業内容ならびに授業運営にとって有益な示唆を与えるものとなるであろう。なお、健康スポーツ科目の授業形態は各キャンパスにおいて異なるため、本稿においては湘南キャンパスの事例を

中心に取り上げることとする。

Ⅱ. 2020 年度春学期における健康スポーツ科目の概要

2020 年度春学期の健康スポーツ科目は Covid-19 対策により遠隔授業として開講され、一般体育研究室特設サイト(以下、特設サイト)による課題提示と授業支援システム(以下、LMS)を用いたレポート提出というオンデマンド形式による課題学修型の授業として展開された。学生は、各自で特設サイトにアクセスし、掲載された「学修計画書」に基づいて授業内容や課題を確認し、教科書ならびに参考資料を用いて自己学修のうえ、LMS を用いてレポートを提出するというサイクルを毎週実施することとした。

学修計画書とは、單元ごとの「テーマ」「授業目的」「教科書該当ページ」「キーワード」「学修の進め方・内容」「課題」「参考資料」「レポート評価基準」といった授業に必要な情報をまとめたものであり、教科書の内容に沿って作成した。特設サイトを通じて毎週日曜日に学生に配信を行い、この学修計画書によって全履修者が統一された内容で学修を行うことが可能となった(資料 1)。

授業内容については、14 回の授業回数を維持したうえで、教科書の内容を網羅する形で各単元のテーマを設定した(表 1、表 2)。基本的には、教科書を基本とした座学による課題学修であり、健康・フィットネス理論実習においては一部運動を実技による課題を取り入れたが、生涯スポーツ理論実習では実技を取り入れなかった。理由は、オンデマンド型の遠隔授業においては、学生の体調や体力・技能レベル等を把握できないうえに、当時は外出自粛などの行動制限の程度が不透明であり、学生の安全性が十分に確保できないと判断したためである。また、他大学の体育授業で散見された学生の運動実践を動画等に記録して提出させるような課題については、学生のインターネット環境の確保や大容量のデータをやり取りするインターネットシステムの整備が不十分であったため見送ることとした。

遠隔授業における教材は、健康スポーツ科目に用いるために東海大学一般体育研究室で編集した

教科書「健康・フィットネスと生涯スポーツ 三訂版」(大修館書店)を引き続き使用した。加えて、WEB サイトや NHK オンデマンド等の動画教材を参考資料として学修計画書によって提示した。学生自身が独自で参考資料を検索することも認め、その場合は出典を明示するよう指示をした。一方で、海外にいる学生の教科書購入は一つの課題となった。出版社からの情報提供により、海外からも注文が可能な WEB サイトを学生に伝えて教科書購入を促すとともに、参考資料を提示して課題回答を求めるなどの対応を行った。

また、運動制限のある学生や自身の障害や特性から通常の授業での履修が困難な学生を対象として「個別クラス」を開講していたが、遠隔授業への切り替えに伴い、実技を行わなくても学修を進めることができるため、2020 年度春学期については開講を取り止めた。なお、学生からの要望があ

った場合には開講できる体制は整えていたが、学生からの要望はなかった。

レポートは大学が導入していた LMS を用いて、WEB システム上から提出させた。レポート提出期限は曜日時限関係なく統一を図り、学修計画書の提示(毎週日曜日 21:00)から 2 週間後(月曜日の 0:00) に設定した。レポートの評価は、提出による基礎点と内容による実習評価点によって構成され、評価基準や点数の配分を学修計画書に記載して学修課題の明確化と透明性の確保に努めた。

出欠席の確認については、レポートの提出をもって出席として扱い、シラバスの規定通り全授業回数数の 2/3 以上の出席がある者を成績評価の対象とした。成績評価は、単元ごとのレポートの合計点により行った。定期試験は、対面・遠隔いずれにおいても試験環境を整えることが不可能であったため実施しなかった。

健康・フィットネス理論実習 学修計画書 (第 2 回)

<p>【テーマ】 健康スポーツ科目の意義と QOL</p> <p>【目 的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 東海大学における健康スポーツ科目の意義について考える。 ■ 健康や QOL の概念を理解したうえで、自らにとっての健康・QOL について考える。 <p>【教科書】 はじめに P2-3 健康と QOL</p>	<p>【参考資料】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) スポーツ庁が考える「スポーツ」とは? Deportare の意味すること https://sports.go.jp/special/policy/meaning-of-sport-and-deportare.html スポーツ庁 WEB 広報マガジンデポルターレ (2018 年 3 月 15 日) (2) 学長挨拶 (東海大学の考える QOL) https://www.u-tohoku.ac.jp/about/message2/ <p>【参考: NHK オンデマンド】 NHK スペシャル 私たちのこれから「#健康格差 あなたに忍び寄る危機」</p>
<p>【キーワード】 健康、QOL</p> <p>【学修の進め方・内容】</p> <p>「健康」の概念は非常に幅広い。健康については、WHO(世界保健機関)憲章による「健康とは、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態であり、単に病気あるいは虚弱でないことではない」といった定義が有名である。しかし、完全に良好な状態はありうるのだろうか。障害や病気があったとしても生きがいを持ち満足感の高い生活を送る人もいるし、人々は多かれ少なかれ不安やストレスを抱えて生きている。このように健康とは定義が難しく正解はないとも思える。</p> <p>近年 QOL (Quality of Life) という概念が注目されている。QOL とは、「生活の質」や「人生の質」などと訳され、単に身体面の健康のみに着目する概念ではなく、各種視点からの「人間のより良い状態」を意味している。</p> <p>また、多くの人々が QOL の高い生活を送るためには、健康に関わる制度・環境づくりも必要不可欠である。東海大学では「QOL の向上に資する人材育成」を推進しており、今後の大学生活における学修の方向性を考えるうえで「QOL」や「健康」について適切に理解することが必要である。そこで、本授業ではまずは教科書の該当ページならびに参考資料をしっかり読んで、健康や QOL に関する基本的な考え方を理解してもらいたい。</p>	<p>【レポート評価基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) レポート文字数 600 字以上、文章の体裁が整っており、誤字脱字等が少ない [1 点] (2) WHO による QOL 概念を構成する要素について説明がされている [1 点] (3) 東海大学における QOL について説明がなされている [1 点] (4) 自分にとっての健康もしくは QOL の高い状態に関する意見が書かれている [1 点] <p><提出期限: 5 月 31 日(日) 授業支援システムのアクセス日時に注意すること></p>
<p>スポーツ庁の調査によると、運動・スポーツ習慣がストレス解消と生活の充実につながるという報告もある(参考資料より)。一方で、運動嫌いや苦手な者にとっては、スポーツ活動以外の様々な活動が生活の充実やストレス解消につながるであろう。つまり自分にとっての健康の考え方を整理するとともに他者の健康に対する考え方を共有・尊重することが必要である。本授業を通じて、自らにとっての健康や健康を支える要素、QOL の高い状態とはどのようなことか考えるきっかけとなることを期待する。</p> <p>【課 題】</p> <p>教科書を踏まえて WHO が分類する QOL を構成する要素を説明するとともに、参考資料を踏まえて「東海大学における QOL の定義」を説明しなさい。また、教科書や参考資料をもとに健康や QOL の理解を深めたいうえで、自分にとっての健康な状態もしくは QOL の高い状態について、あなたの考えを述べなさい。</p> <p><提出期限: 5 月 31 日(日) 授業支援システムのアクセス日時に注意すること></p>	<p>【やってみよう: 本時の運動の実践】</p> <p>猫背は見た目が格好悪いというだけでなく、首や肩の凝り、腰痛などの体調不良の原因となる場合もあります。次のサイトを参考に、猫背の改善や予防のストレッチを無理のない範囲で実践してみてください。</p> <p>有賀誠司 (2018) 背中を伸ばして猫背を予防しよう。高校生新聞オンライン https://www.koukouseishinbun.jp/articles/-/4449</p> <p>有賀誠司 (2018) 背中から肩を伸ばして姿勢を正そう。高校生新聞オンライン https://www.koukouseishinbun.jp/articles/-/4446</p>

資料 1 学修計画書サンプル

Ⅲ. 授業運営体制と授業運営説明会

湘南校舎における健康スポーツ科目は、1 年次生ならびに再履修者の合計約 5,500 名が履修する大規模な科目である。2020 年度春学期は 80 コマの授業が開講され、のべ 180 名の教員が担当した。そのため、遠隔授業への切り替えにあたり、授業内容の統一と授業の質の担保が課題となった。また、多数の教員が関わるため学生への情報提供を一元化する必要があった。その課題に対応するために、一般体育研究室の構成教員によりプロジェクトチームを立ち上げて授業内容の検討と授業運営を行った。プロジェクトチームは 5 名で構成され、全体統括、学修計画書の作成、学生対応、特設サイトの運営、LMS の設定、学生・教員への情報発信などの業務を分担し、授業運営体制を整えた。学生に対する授業内容の提供はすべてこのプロジェクトチームが担い、その他の授業担当教員は提出されたレポートの採点業務を中心に担当することとなった。

また、健康スポーツ科目の授業担当教員への情報提供のため、授業期間中の毎週土曜日に全 14 回の一般体育授業運営連絡会を web 会議にて実施した。連絡会の様子は動画にてレコーディングを行い、特設サイトの教員専用ページから随時視聴できるようにした。主な内容は以下の通りである。

- ① 授業課題の説明
- ② 課題採点のポイント解説
- ③ 学生からの質問と回答
- ④ 授業担当教員からの質問と回答
- ⑤ LMS の使い方の説明
- ⑥ 大学からの最新情報

連絡会を開催することで、担当教員が授業内容やレポート採点、学生への対応について共通の理解を持つことができた。また、実際の授業で起きている事例や問題点、その解決策を共有することができた。

Ⅳ. 健康・フィットネス理論実習の授業内容と変更点

健康・フィットネス理論実習は、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理解を深めるとともに、自己の体力に応じたフ

ィットネスの実践能力を習得することを目的とした科目である。2019 年度までは、ガイダンス(1 回)、体力測定(2 回)、健康づくりのための運動の理論と実践(9 回)、健康に関する知識や考え方を学ぶための講義(2 回) の計 14 回の授業により構成され、さらに定期試験として筆記試験を実施していた。自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得することを重視していたため、授業内容は実技を中心に展開されていた。具体的に学生は、まず体力測定を実施したうえで、エアロビクス運動、筋力トレーニング、コンディショニング運動(ストレッチングやコーディネーショントレーニング)という 3 つの運動領域について理論を学びながら運動を実践する形態をとっていた。

しかしながら、2020 年度春学期については遠隔授業に伴い、理論の理解を重視した課題学修を中心として展開し、実技(運動の実践)は最小限にとどめた。授業内容の構成はガイダンスとまとめ(2 回)、建学の精神と健康スポーツ科目の意義に関する学修(1 回)、教科書等をもとにした健康・体力・運動実践に関する課題学修(8 回)、3 つの運動領域に対応した課題学修(3 回)の計 14 回となり、定期試験は実施しなかった(表 1)。

遠隔授業における実技については、3 つの運動領域の単元において、実践方法や運動強度の設定方法を提示したうえで、学生自身が無理のない範囲で運動を実践し、その感想を課題として提出させた。しかしながら、Covid-19 による社会情勢や学生の健康状態などにより実技を実施できない場合を想定し、実技に替わる課題も併せて提示して、実技を行わなくてもレポートが提出できるよう選択肢を用意した。一方で、毎回の学修計画書には、教員が外部媒体に掲載していた既存の WEB サイト(写真や動画)を活用し「やってみよう！本時の運動実践」として健康づくりのための運動プログラムを提示して運動の実践を促した。「やってみよう！本時の運動実践」については、健康管理のツールとして学生に活用してもらうことを目的としたため成績評価には加えなかった。

Ⅴ. 生涯スポーツ理論実習の授業内容と変更点

生涯スポーツ理論及び実習は、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの持つ「おもしろさ」などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を修得することを目的とした科目である。

2019年度までの授業形態としては、ガイダンス(1回)、生涯スポーツに関する講義(1回)に加え、2種目のスポーツを6回ずつの実技授業を通して学習し、実技授業においては適宜それぞれの種目のルールや戦術などの理論の講義を実施していた。

しかし、2020年度春学期においては、理論の理解を重視した課題学修によるオンデマンドによる授業を展開した。授業内容は、まず、授業前半は、ガイダンス(1回)、建学の精神と東海大学におけるQOLを通して健康スポーツ科目が開講されている意義を理解する内容(1回)、スポーツの概念や本質的な価値に関する内容(1回)、「する」「みる」「支える」「知る」といった様々なスポーツの楽しみ方を理解する内容(4回)について学修を進めた。授業の後半からは、スポーツの実践として「球技・集団」「個人・ネット競技」「個人競技」「アウトドアスポーツ」「武道」といった分類で各種のスポーツ種目の歴史や特徴、ルール、基本技術、ゲーム

の楽しみ方を中心に広く学修した(5回)、13回目の授業では、これまで学んできた内容を踏まえ、大学生活においてどのようにスポーツを楽しみ、卒業後も生涯にわたってスポーツにどのように関わっていくかを自分のキャリアや将来像と関連して考えさせる内容とし(1回)、最後に次学期の健康スポーツ科目の説明を行った(表2)。

学修計画書は、教科書の内容に沿って、教科書の執筆者とも相談したうえで作成した。各単元で受講者に学修してもらいたいテーマや目的、学修の進め方を明確にした上で、課題を提示した。この学修計画書には参考とする教材として、教科書以外にNHK オンデマンドや参考となる動画、関連したWebサイトなどを掲載し、受講者が課題に対して自ら考え、主体的に課題に取り組めるようにした。

従来は受講者が選択した2種目のスポーツ種目の実技を中心に授業を展開していたが、2020年春学期については、設備や用具が自宅では十分に用意できないことや体力や健康状態の把握が十分に実施できず受講者の安全性が担保出来ないことから、実技は実施しなかった。

表1 健康・フィットネス理論実習における授業内容

	2019年度まで	2020年度春学期
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	●体力測定1(屋内種目)	健康・スポーツ科目の意義とQOL
第3回	●体力測定2(屋外種目)	運動・休養と健康
第4回	講義1(健康とフィットネスについて)	食事と健康
第5回	●エアロビクス運動1(基礎)	喫煙・飲酒・薬物乱用と健康
第6回	●エアロビクス運動2(応用)	生活習慣病
第7回	●エアロビクス運動3(発展)	体力とは
第8回	●筋カトレニング1(基礎)	トレーニングの基本原則と実践方法
第9回	●筋カトレニング2(応用)	●エアロビクス運動の理論と実践
第10回	●筋カトレニング3(発展)	●筋カトレニングの理論と実践
第11回	●コンディショニング運動1(基礎)	●コンディショニング運動の理論と実践
第12回	●コンディショニング運動2(応用)	こころの健康と運動中の安全管理
第13回	●コンディショニング運動3(発展)	自らの日常生活と健康
第14回	講義2(まとめ)	来学期の健康スポーツ科目について
定期試験	有	無

●は実技を含む

表2 生涯スポーツ理論実習における授業内容

	2019年度まで	2020年度春学期
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	●1種目目	健康・スポーツ科目の意義とQOL
第3回	曜日時限ごとに開講された下記の種目より、適	スポーツと生涯スポーツ
第4回	宜選択する。	スポーツの楽しみ方(する)
第5回	サッカー、卓球、柔道・護身術、テニス、陸上競技、	スポーツの楽しみ方(見る)
第6回	剣道、ソフトボール、ラグビー、バレーボール、バス	スポーツの楽しみ方(支える)
第7回	ケットボール、バドミントン、ハンドボール、空手	スポーツの楽しみ方(知る)
第8回	道、ゴルフ	スポーツの実践(球技・集団)
第9回	日常生活とスポーツ(講義)	スポーツの実践(個人・ネット競技)
第10回	●2種目目	スポーツの実践(個人競技)
第11回	曜日時限ごとに開講された下記の種目より、適	スポーツの実践(アウトドアスポーツ)
第12回	宜選択する。	スポーツの実践(武道)
第13回	サッカー、卓球、柔道・護身術、テニス、陸上競技、	大学生とスポーツ(まとめ)
第14回	剣道、ソフトボール、ラグビー、バレーボール、バス	来学期の健康スポーツ科目について
定期試験	無	無

●は実技を含む

VI. 遠隔授業特設サイトと授業支援システムについて

1. 特設サイトとLMSの活用

2020年4月3日、2020年度春学期授業の開始が5月11日に延期されることと同時に、開講授業は原則インターネットを活用した授業(オンライン授業等)で行われることが大学公式ホームページより発表された。それから約1ヶ月間で「東海大学体育学部遠隔授業特設サイト」を整備し、5月7日に約5,500名の健康スポーツ科目履修者に公開した。特設サイトには、学生へ授業内容・課題を提供するほか、授業の進め方、担当教員への情報提供、学生の相談窓口などの機能を持たせ、レポートの提出と採点のみLMSを使用した。

2. 特設サイトの必要性

全学部必修科目である健康スポーツ科目を遠隔授業で実施するにあたり、運用上の問題点は以下の通りであった。

- ① 遠隔授業でも提供する授業内容や採点基準を一定に保つ必要がある。
- ② LMSでは、ファイルサイズの大きいリッチコンテンツを提供できない。アクセスが集中すると、システムがダウンしてしまう可能性が

ある。

- ③ LMSの利用について学部ごとに利用制限が設けられたため、授業曜日時限とLMS利用時間帯が一致しない。また、1日90分のLMS利用時間内では、動画を閲覧する、必要な情報を調べてレポートを作成するなどは難しく、実際の学修や課題への取り組みは、LMS外で行える必要がある。

- ④ 教員によってITリテラシーが異なるため、授業実施や採点の方法に複数のツールは使わず、できる限りシンプルにする必要がある。

これらの問題を解決するため、一般体育研究室が運営する特設サイトを作成することとした。学内のシステムに依存しない特設サイトから授業内容・課題を全履修者に対して同時に提供することで、授業の平等性を保ちつつ、アクセス制限や授業曜日時限の問題を解決することができた。一方、学内のLMSは履修登録システムとリンクしているため、レポートの採点から成績算出まで行える。そのため、レポートの提出と採点にはLMSを使用することで、授業担当教員が使うツールを統一し、採点業務の円滑化を図るとともに、ITリテラシーの差による影響を最小限に抑えた。

3. 特設サイトの構成と運用

特設サイトの作成には、ホームページ作成ツール「jimdo」を使用した。サイト名称を「東海大学体育学部遠隔授業特設サイト」とし、体育学部の科目と一般体育科目の情報を掲載するサイトとした。一般体育関連の主なページと内容は、以下の通りである。なお、それぞれのページにはパスワードを設定しており、履修者もしくは担当教員しか閲覧できないようにした。

① 遠隔授業の進め方

シラバスに即したページ構成にすることで、遠隔授業用の新しいシラバスとして使用した。内容は、授業形態や成績評価、授業計画などである。

② 授業課題

最新の授業課題のページは毎週日曜日の 21 時に更新し、次週の学修計画書を掲載した。なお、学修計画書については、テキストと PDF ファイルを掲載した。それまでの授業課題は過去の課題ページにアーカイブし、いつでも振り返って学修ができるようにした。

③ 問い合わせと FAQ

問い合わせページのフォームに質問を入力すると、一般体育研究室委員のメーリングリストに連絡が届くよう設定した。問い合わせ内容に対しては個別に回答を返信するとともに、FAQ に匿名で掲載した。FAQ は適宜更新を行い、学生が担当教員や一般体育研究室に問い合わせなくても問題を解決できるよう配慮した。

④ 教員専用ページ

教員専用ページには、次回の課題、課題採点のポイント、LMS の操作方法、成績の付け方、担当教員一覧、学生からのコメント・質問の対応について、学生からの問い合わせ内容一覧、毎週実施した授業運営連絡会の動画、教員用 FAQ などを掲載した。健康スポーツ科目の授業担当教員が授業内容や採点について、共通の理解を持ち、滞りなく授業運営ができるよう適宜更新を行った。

4. 特設サイトの利用状況

図 1 は特設サイトを閲覧したユーザー数とページビュー数を週別に表したものである。週毎のユーザー数は平均 5,467 名であり、ほとんどの履修者が毎週サイトを訪問していたと思われる。また、ページビューについては、平均 47,309 ビューであったが、週を追う毎に減少している傾向が見られる。これは、徐々に見るべきページがはっきりしてきたため、特定のページ(最新課題のページ)を確認するようになったためと思われる。

図 2 は、特設サイトに訪れた際に使用していたデバイスの割合である。約半数の学生がモバイル端末やタブレット端末を使用していたことが見て取れる。特設サイトは基本的に PC で見ることを前提に作成していたが、スマートフォンなどで見ることも考慮してサイトを作成する必要性が示唆された。

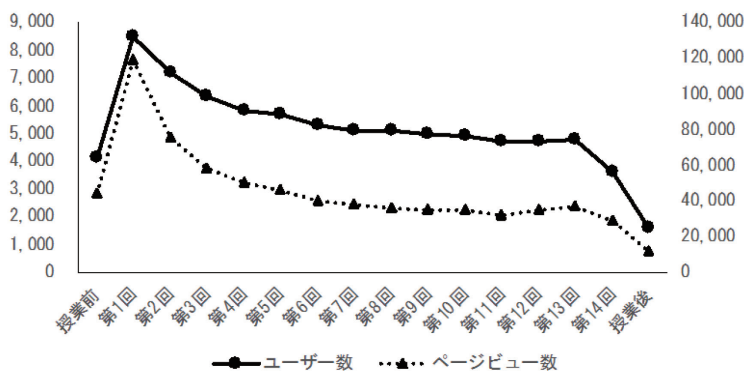


図 1 特設サイトの週別ユーザー数とページビュー数

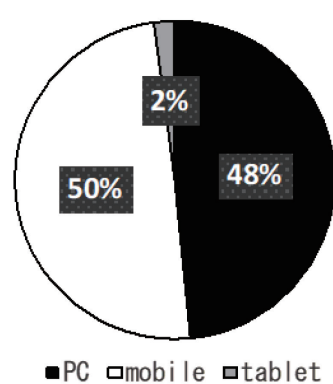


図 2 使用デバイスの割合

Ⅶ. 学生からの問い合わせ対応について

健康スポーツ科目に関する学生からの問い合わせについては、特設サイト内に設定した専用フォーム(資料1)もしくは一般体育研究室宛のメールアドレスを用いて受け付けた。教員による回答のばらつきを避けるため、一般体育研究室のプロジェクトチームメンバーが一括して対応することとした。春学期期間中の問い合わせ件数は全205件であった。

主な質問内容については、以下の通りであった(図3)。

① LMS の使い方

最も多い問い合わせとして全体の34.6%を占めたのが、LMSの使用方法であった。「LMSの使用時間帯など制限があったためページを開けない」、「レポートを作成しているうちにタイムアウトしてしまった」といった内容が散見された。

② 課題内容

次に多い問い合わせが全体の34.1%を占めた

課題内容であった。「どのように課題を作成すればよいのか」、「課題を間違えて作成してしまった」などの内容が散見された。

③ パスワード

3番目は、全体の12.1%を占めたパスワードに関する内容であった。「課題ページに入るパスワードがわかりません」、「パスワードを教えてください」といった内容が散見された。

④ その他

その他、授業の進め方(7.3%)、教科書(4.3%)、ホームページ(3.9%)、課題提出(2.4%)に関する問い合わせがあった。

学生からの問い合わせ時期については、授業開始当初の5月中旬の73件(35.6%)がもっとも多く、その後、徐々に問い合わせが減少していった。授業開始当初は特設サイトの情報の周知が不十分であったうえに、学生もLMS等のシステムの操作が不慣れであったため、問い合わせが殺到したことが想定される(図4)。

お問い合わせ

※お問い合わせの前に必ずFAQをご覧ください。
 ここからレポートを提出しないでください。
 送信しても回答したことはありません。
 レポート課題は提出締切以後も一定期間はLMSで受け付けています。

学生証番号 (英字は大文字ABC) *

氏名 *

科目名 *

健康・フィットネス理論実習 ▼

開講曜日 *

月曜 ▼

開講時限 *

1限 ▼

メールアドレス *

メッセージ (具体的に) *

プライバシーポリシー が適用されます

資料2 特設サイト問い合わせフォーム

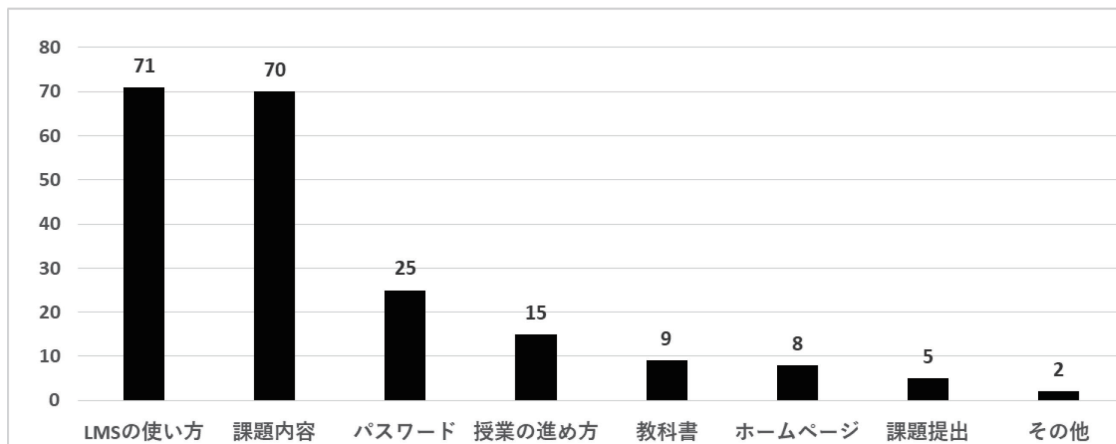


図3 内容別問い合わせ件数

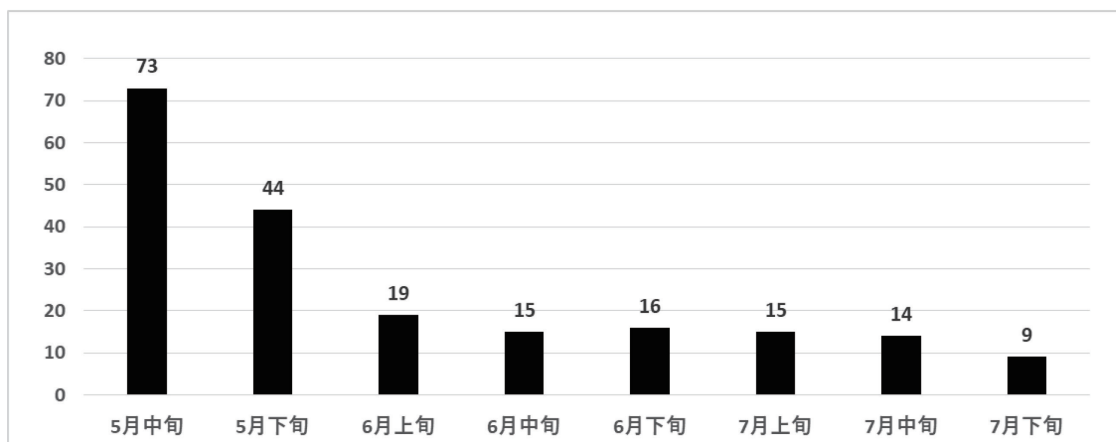


図4 問い合わせ件数の推移

Ⅷ. 遠隔授業の有用性と今後の課題

1. 遠隔授業の有用性と課題について

Covid-19 への対応として急ぎょ導入された遠隔授業であったが、教科書の内容を詳細に扱うことが出来たため、健康や身体運動に関する知識や理論、スポーツに関する知識や理論を体系的に学修するうえでは有益であったと考えられる。また、レポート課題については、教科書等を中心にして知識や理論をまとめる課題とともに、運動実践を伴う課題や、自身の生活や経験を振り返る課題、社会情勢や具体的事例を調べる課題などを組み合わせて提示したことにより、知識・理論と実践の相互関係について理解を深めることが出来たのではないかと考えられる。これは用語の暗記などの

知識に偏りやすい筆記試験や過去の運動経験が大きく影響する実技試験による評価を補完する意味でも重要であろう。また、高等学校までに経験してきた保健体育科の授業とは一線を画した大学という高等教育機関における体育授業の在り方を考えるうえでも重要である。そのためにも授業で扱う内容の専門性・実践性・学際性を高める必要があるだろう。一方で、2020年春学期の遠隔授業は、各種の制約のため学修計画書によるオンデマンド形式の授業となり、動画資料の配信、教員の専門性を生かした解説や質疑応答などに対応できていない。学生の興味関心や学習意欲を高めるためにも、リアルタイムでの講義の実施や動画資料の提示などの工夫が必要である。また、今回の遠隔授

業においては実技の導入が限定的となり、実技科目としての意義を十分に果たせたとはい難い。オンラインでの実技授業の可能性もあるが、体力・経験にばらつきが大きいというのに、学生の健康状態の把握が難しく、授業配信のシステム上でも5000人を超える大規模授業での導入には限界がある。今後は、対面授業における感染症対策や遠隔授業との併用方法を具体的に検討する必要があるだろう。

2. 初年次教育としての健康スポーツ科目の価値について

健康スポーツ科目は初年次教育の一環として「友達づくり」を授業目的の一つとしているが、2020年度春学期に実施したオンデマンド形式の遠隔授業では学生間の交流機会を設けることが出来ず、その目的を達成することが出来なかった。学生間の交流を生むためにも、対面形式の実技授業を設ける必要があると思われる。また、オンライン形式による遠隔授業を設けることにより、ネットワーク上での交流が可能かどうかを検討する必要がある。

3. 教員の業務分担と専門性について

2020年度春学期については、授業内容の統一と情報提供の一元化を図った結果、授業担当教員はレポートの採点とフィードバックが業務の中心となった。教員は健康づくりの運動や各スポーツ種目に対する高い専門性を有しており、学生のニーズに対応するうえでもその専門性を生かした授業展開が必要である。特に2022年度から始まる新カリキュラムでは、生涯スポーツ理論実習において実技中心の授業と講義中心の授業を設定し、学生が興味関心に応じて選択できるようにすることを検討している。その際には、学生の興味関心を高めるとともに高い学習効果を生むためにも、教員の専門性を生かした授業を展開する必要がある。

4. 特設サイトの有用性について

2020年度春学期の遠隔授業を実施するための問題に対しては、特設サイトは十分有用であった

と言える。しかし、その内容は、統一された遠隔授業を展開するうえで有効な方法に過ぎない。

本来の健康スポーツ科目は実技科目である。2021年度以降、対面授業と遠隔授業を併用して行うためには、感染症対策などでグループ分けが必須であると考えられる。今後は、全履修者に対して一括で情報を提供するのではなく、グループ毎のスケジュールに沿って授業を実施できるよう、授業課題の提示方法を根本的に見直す必要があると考えられる。また、円滑に学修を進めるうえでも、履修者への特設サイトの周知や誘導は課題である。LMSやシラバス、時間割等において特設サイトに誘導する工夫が必要である。一方で、5,000人を超える履修者に対して滞りなく平等に情報や授業課題を提供したり、多数の教員がLMSを操作することで生じるミスを減少させたりするためにも、引き続き特設サイトは有用であると思われる。コンテンツや情報提示の工夫改善を進める必要がある。

文献

- 1) 文部科学省(2020) 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況 .https://www.mext.go.jp/content/20200527-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf (参照日 2021年1月31日)
- 2) 東海大学一般体育研究室(2020) 健康・フィットネスと生涯スポーツ三訂版.大修館書店